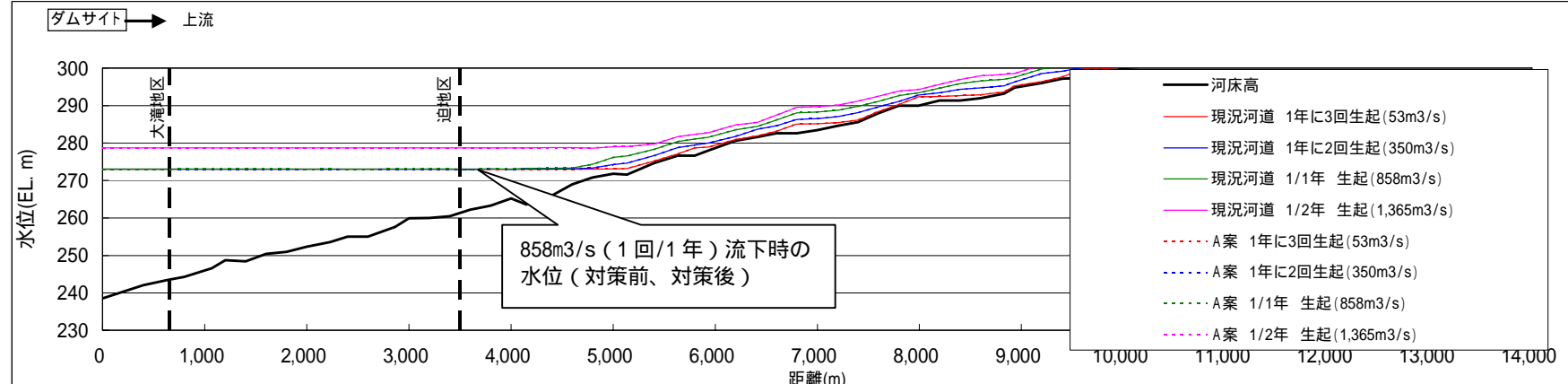
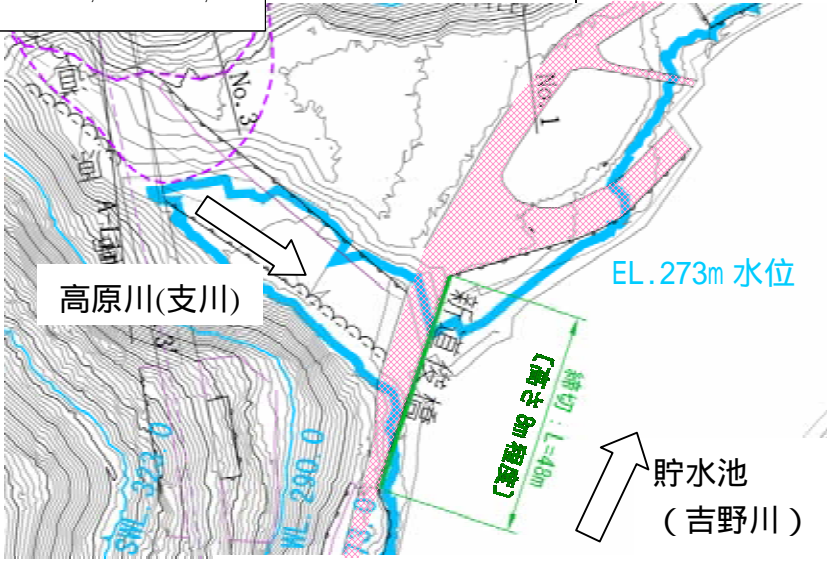
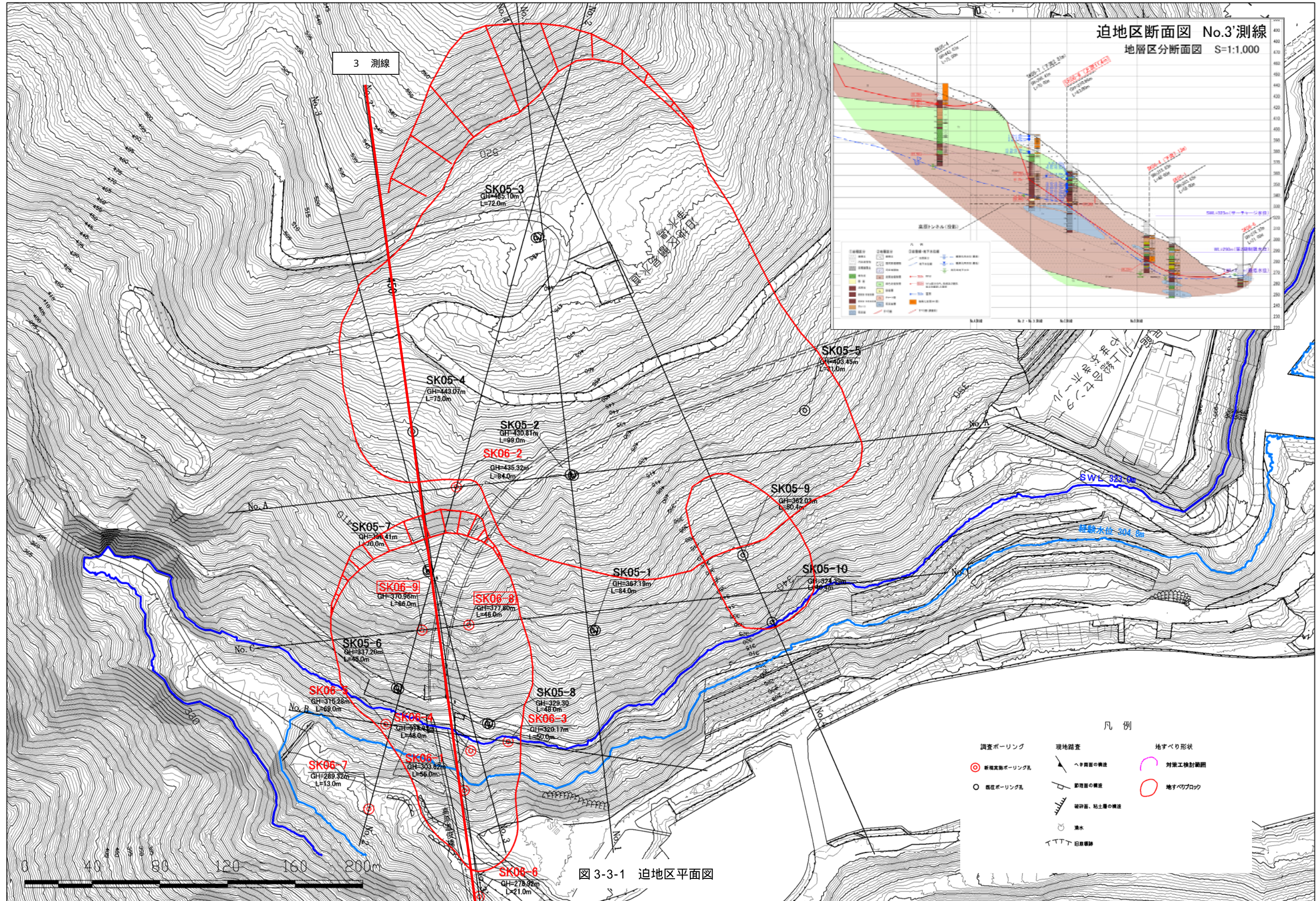


§ 3 迫地区貯水池斜面对策の検討

事項	要点	備考																							
<p>3-3 設計条件</p> <p>1) 計画安全率</p>	<p>・ 迫地区前面すべりの計画安全率は1.15とする。</p> <p>・ 安全率の配分は、抑制工によってブロックの安全率を最低1.05まで確保する。</p> <p>&lt;経緯&gt;</p> <p>大滝ダム貯水池斜面再評価検討委員会 提言 H18.3</p> <p>迫地区の下部すべりに対しては、押え盛土工法を主工法とし、補助工法として抑止工および排土工を検討することを提案した。</p> <p>なお、迫地区の下部すべりに対する補助工法の検討にあたっては、上部すべりへの影響を考慮する必要がある。</p> <p>大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会 議事要旨 H18.11</p> <p>地すべり対策を検討する安定解析の計画安全率を、大滝地区ならびに迫地区において1.15とする。</p> <p>目標とする安全率の配分では、大滝地区ならびに迫地区においては、抑制工によってブロックの安全率を最低1.05まで確保する。</p>	<p>対象とするすべり ブロック</p> <p>迫地区下部すべり 規模</p> <p>幅：約100m 奥行き：約200m 層厚：35～40m 土塊量：約30万m<sup>3</sup></p> <p>保全対象 貯水池周辺の施設</p> <p>H17 大滝ダム貯水池斜面 評価検討委員会時の検討資料より</p>																							
<p>2) 設計断面</p>	<p>・ 安定計算に用いる断面はNo3 測線とする。</p> <p>・ 迫地区の安定解析のための想定ブロックは、下部すべりを対象とする。</p>																								
<p>3) 施工時水位と (本川) 河流処理</p>	<p>基本的にドライ施工となる。(EL273.0mで貯水池運用を想定しているが、締切〔h=8m程度〕で対応可能なため設計上の支障にはならない。) ただし、高原川については施工時の転流処理を考慮する必要がある。</p>  <p>図 3-3-3 「大滝地区 護岸擁壁タイプ(A案)採用時」の本川水位縦断</p> <p>表 3-3-1 洪水時の本川水位</p> <table border="1" data-bbox="593 1533 1187 1953"> <thead> <tr> <th colspan="2">洪水の頻度</th> <th>現況河道状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1年に3回</td> <td>水位(EL.m)</td> <td>EL.273.0m</td> </tr> <tr> <td>流速(m/s)</td> <td>0.1m/s</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1年に2回</td> <td>水位(EL.m)</td> <td>EL.273.0m</td> </tr> <tr> <td>流速(m/s)</td> <td>0.8m/s</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/1年</td> <td>水位(EL.m)</td> <td>EL.273.1m</td> </tr> <tr> <td>流速(m/s)</td> <td>1.9m/s</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/2年</td> <td>水位(EL.m)</td> <td>EL.278.7m</td> </tr> <tr> <td>流速(m/s)</td> <td>3.1m/s</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図 3-3-2 迫地区水位 (EL273m)</p>	洪水の頻度		現況河道状況	1年に3回	水位(EL.m)	EL.273.0m	流速(m/s)	0.1m/s	1年に2回	水位(EL.m)	EL.273.0m	流速(m/s)	0.8m/s	1/1年	水位(EL.m)	EL.273.1m	流速(m/s)	1.9m/s	1/2年	水位(EL.m)	EL.278.7m	流速(m/s)	3.1m/s	<p>図 3-3-1 参照</p>
洪水の頻度		現況河道状況																							
1年に3回	水位(EL.m)	EL.273.0m																							
	流速(m/s)	0.1m/s																							
1年に2回	水位(EL.m)	EL.273.0m																							
	流速(m/s)	0.8m/s																							
1/1年	水位(EL.m)	EL.273.1m																							
	流速(m/s)	1.9m/s																							
1/2年	水位(EL.m)	EL.278.7m																							
	流速(m/s)	3.1m/s																							



§ 3 迫地区貯水池斜面对策の検討

事 項	要 点	備 考
<p>3-3 設計条件</p> <p>4) 沢水の諸元</p>	<p>迫地区で対策工（押え盛土）を講じる場合には、高原川（支川）の転流処理が必要となる。</p> <div data-bbox="617 384 1537 1129" data-label="Figure"> </div> <p>図 3-3-4 高原川流域図</p> <div data-bbox="1605 384 2228 779" data-label="Figure"> </div> <p>図 3-3-5 高原川縦断面</p>	

§ 3 迫地区貯水池斜面对策の検討

事 項	要 点	備 考																								
3-3 設計条件 5) 設計条件一覧	<p>迫地区の設計条件の一覧を下表に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 3-3-2 迫地区の設計条件一覧</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>設計条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地すべり規模</td> <td>約 30 万 m<sup>3</sup> ( 下部すべり ) 〔 幅 100m、奥行き 200m、層厚 35 ~ 40m 〕</td> </tr> <tr> <td>現状安全率 ( 逆算水位 )</td> <td>EL271.0m で Fs=1.0</td> </tr> <tr> <td>残留間隙率〔 対策工前 〕 ( 水位低下速度 )</td> <td>5% ( 5m/日 )</td> </tr> <tr> <td>残留間隙率〔 対策工後 〕 ( 水位低下速度 )</td> <td>45%〔 盛土高 300m の場合 〕 60%〔 盛土高 305m の場合 〕 ( 5m/日 )</td> </tr> <tr> <td>計画安全率</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td>( 全 ) 必要抑止力 〔 対策工前 〕</td> <td>13,000kN/m</td> </tr> <tr> <td>抑制工分担の安全率</td> <td>1.05 以上</td> </tr> <tr> <td>( 抑止工 ) 必要抑止力</td> <td>抑制工 1.05 の場合 5,700kN/m 程度</td> </tr> <tr> <td>施工時状況</td> <td>ドライ施工</td> </tr> <tr> <td>本川河流処理の確率規模 ( 対象流量 )</td> <td>1 回/1 年 <sup>1</sup> ( 約 860m<sup>3</sup>/s )</td> </tr> <tr> <td>支川河流処理の確率規模 ( 対象流量 )</td> <td>・ 転流時 1 回/1 年 ( 130m<sup>3</sup>/s ) ・ 完成時 1 回/100 年 ( 423m<sup>3</sup>/s ) <sup>2</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>1 : 「重力式コンクリートダムの一般的な転流対象流量」等を参考に設定            2 : 「土石流対策技術指針(案)」を参考に設定</p>	項 目	設計条件	地すべり規模	約 30 万 m <sup>3</sup> ( 下部すべり ) 〔 幅 100m、奥行き 200m、層厚 35 ~ 40m 〕	現状安全率 ( 逆算水位 )	EL271.0m で Fs=1.0	残留間隙率〔 対策工前 〕 ( 水位低下速度 )	5% ( 5m/日 )	残留間隙率〔 対策工後 〕 ( 水位低下速度 )	45%〔 盛土高 300m の場合 〕 60%〔 盛土高 305m の場合 〕 ( 5m/日 )	計画安全率	1.15	( 全 ) 必要抑止力 〔 対策工前 〕	13,000kN/m	抑制工分担の安全率	1.05 以上	( 抑止工 ) 必要抑止力	抑制工 1.05 の場合 5,700kN/m 程度	施工時状況	ドライ施工	本川河流処理の確率規模 ( 対象流量 )	1 回/1 年 <sup>1</sup> ( 約 860m <sup>3</sup> /s )	支川河流処理の確率規模 ( 対象流量 )	・ 転流時 1 回/1 年 ( 130m <sup>3</sup> /s ) ・ 完成時 1 回/100 年 ( 423m <sup>3</sup> /s ) <sup>2</sup>	
項 目	設計条件																									
地すべり規模	約 30 万 m <sup>3</sup> ( 下部すべり ) 〔 幅 100m、奥行き 200m、層厚 35 ~ 40m 〕																									
現状安全率 ( 逆算水位 )	EL271.0m で Fs=1.0																									
残留間隙率〔 対策工前 〕 ( 水位低下速度 )	5% ( 5m/日 )																									
残留間隙率〔 対策工後 〕 ( 水位低下速度 )	45%〔 盛土高 300m の場合 〕 60%〔 盛土高 305m の場合 〕 ( 5m/日 )																									
計画安全率	1.15																									
( 全 ) 必要抑止力 〔 対策工前 〕	13,000kN/m																									
抑制工分担の安全率	1.05 以上																									
( 抑止工 ) 必要抑止力	抑制工 1.05 の場合 5,700kN/m 程度																									
施工時状況	ドライ施工																									
本川河流処理の確率規模 ( 対象流量 )	1 回/1 年 <sup>1</sup> ( 約 860m <sup>3</sup> /s )																									
支川河流処理の確率規模 ( 対象流量 )	・ 転流時 1 回/1 年 ( 130m <sup>3</sup> /s ) ・ 完成時 1 回/100 年 ( 423m <sup>3</sup> /s ) <sup>2</sup>																									